

道徳通信

No.10 2022年(令和4年)9月16日(金)



学習日：7月21日(木) 内容：「心に寄りそう」

運動会の学年種目の「大縄跳び」で1位を目指して練習していた2年1組は、「縄がこわい」と言っていた矢部ちゃんを入れずにとぶか、入れて全員でとぶかで悩みます。運動会前日の長時間に及ぶ話し合いで賛否両論が出される中、最終的に「みんなでとぶ」ことを選択し、勝ち負けではない真の友情に気づきました。「みんなでとんだ!」を通して、体育大会に向かう姿勢について考えていきましょう。

【生徒の考え】 授業後に考えたこと、感じたこと

一人が自分勝手に始めたら、流される人が出るので、そこをなおして最高のクラスになりたいと思います。

勝つことだけがすべてではない。友情を選んで、取ったビリはみんなの心に残る最高のビリだったと思う。

勝ち負けに執着せずに、もっと大事なものを見つけられた気がします。「団結&楽しむ」を第一優先でいこうと思います。

誰一人置き去りにせず、友達を思う気持ちが「最高」と思う気持ちにつながると思う。本番は跳ばないけど、全力で応援していきたいと思っています。

思いやりを持って、相手が嫌がりそうなことは言わずに、勇気づけるような声かけや前向きになれるような声をかけていこうと思います。

「勝ち」だけにこだわるのではなく、「どう跳んだのか」というのが大切だとわかった。

スポーツマンシップを知っていますか。それは、勝敗を超えた相手への思いやりを意味します。明日の体育大会もスポーツ同様に勝敗がつきます。もちろん、すべてのクラスが優勝にこだわって毎日練習していると思います。しかし、勝ちにこだわりすぎて、スポーツマンシップを見失っていませんか。皆さんが体育大会でより成長するために勝ち負け以上に大切にすべきことがあるのではないのでしょうか。「体育大会、やってよかったな」と松永中学校にいる全員が思える姿勢(スポーツマンシップ)について考えてみてください。